



『悲劇の誕生』シアター・コモンズ'19 Photo: Shun Sato

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス ヴィジティング・フェローによるトーク

マキシム・キュルヴェルス (フランス) 「演技の理論と実践(1428-2020):日本編」

- 演劇における俳優の役割や人物像に問いを投げ掛ける、グローバルな演技理論の言説を探る -

2020年2月18日(火) 19:00-21:00 / 森下スタジオ / ゲスト 横山太郎 (立教大学教授)

フランスで活動する若手演出家、マキシム・キュルヴェルスは新作、『演技の理論と実践』の創作の一環として、日本の伝統芸能における演技や演者の役割に関するリサーチを行います。同作は演劇における俳優の役割や人物像に問いを投げ掛ける、グローバルな演技理論の言説をデータベースとするアイデアを出発点とする作品で、欧米の近現代の演劇とともに、それ以外の国や地域の伝統的な舞台芸術や近現代の演劇を対象としています。

アーティスト・トークでは、「演技の理論と実践(1428-2020):日本編」の構想とともに、日本の伝統芸能における演技や演者の役割に関するリサーチのプロセスと成果を紹介します。また、プレゼンテーション後、演劇学(能楽)、身体文化研究をご専門とする横山太郎氏をゲストにディスカッションを行います。

■ 申込方法: Email または電話でお申し込みください。参加無料

Email: residency@saison.or.jp 電話: 03-3535-5566(受付:平日 10:00-18:00)

* 件名を、「2月18日パブリック・トーク申込み」とし、本文に ①お名前②職業

③参加人数④連絡先⑤このイベントをどのようにお知りになったかをご記入ください。

■ 会場: 森下スタジオ(東京都江東区森下 3-5-6)



■ 森下スタジオへのアクセス

地下鉄都営新宿線、都営大江戸線「森下駅」A6出口 徒歩5分 東京メトロ半蔵門線、都営大江戸線「清澄白河駅」A2出口 徒歩10分



マキシム・キュルヴェルス Maxime Kurvers

1987年、サールブール生まれ。ストラスブール大学で舞台芸術を専攻し、ストラスブール国立演劇学校で舞台美術を学ぶ。在学中から、ジェローム・ベルの演出助手を務め、卒業後も演出助手を務めながら、演劇作品の舞台美術を数多く手がける。2015年、演出家として、『pièces courtes 1-9』を発表。2016年に『音楽辞典』、2018年に『悲劇の誕生』をフェスティバル・ドートヌ・パリで上演。日本では同作品をシアター・コモンズ'19で上演。

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスには2020年1月26日から2月19日まで滞在し、「演技の理論と実践(1428-2020)」の創作の一環として、日本の伝統芸能における演技や演者の役割に関するリサーチを行う。